

全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Act(改善)の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



## 静岡県 JA遠州中央

### 生産規模拡大による農業生産の拡大

P

JA遠州中央では、生産規模拡大による農業者の所得増大を目指しています。

2021年度に実施した部会意向調査をふまえ、今後5年間で規模拡大意向のある担い手の規模拡大に向けて、21年度実績3,150haを22年度目標3,280haで取り組みをすすめ、23年度には新たに3,391haを目標とし、24年度には3,493haを目指すこととしました。

A

担い手との対話を通じて把握した自己改革の取り組みにかかる評価や意向をふまえ、取組施策を点検・見直しています。

農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に向けて、さらなる取り組みをすすめます。

C

計画シートの実践が出来るかをe-commitの定期的な巡回や生産部会による面談を通じて確認するとともに計画時とのズレを修正し、生産拡大につながるよう支援しています。

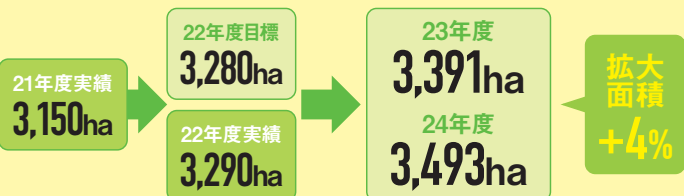
また、2023年度からは半期に一度中間調査を行うことで個々の担い手の実践が着実に進んでいるかどうか、定点的な確認を行うなど支援を強化します。

生産規模拡大に向けては、規模拡大意向のある担い手157先に対して、e-commit(営農指導員)を中心に規模拡大の実現に向けて支援をしています。

担い手は栽培期間中の反省を生かし、e-commitとともに今年度の計画シートを作成し、目標に向かった栽培を行います。

また、独自の営農振興助成事業としてスケールアップ支援事業を展開し、生産資材や機械購入等の支援をすることで生産拡大のバックアップを行っています。

#### 規模拡大意向の担い手157先の面積



e-commitが圃場を巡回し、生育から経営までを伴走支援する。担い手との面談で決めた目標に向かって支援を行う。

